

2019年 日化協 LRI 研究報告会

日本化学工業協会(日化協)は、国際化学工業協会協議会(ICCA)の自主活動として、欧米の化学工業会とともに、化学物質のヒト健康や環境に及ぼす影響に関する研究を支援する事業として LRI (Long-range Research Initiative) を推進しています。この LRI の活動を広く皆様にご紹介いただき取り組みの一つとして、毎年夏に研究報告会を開催しています。

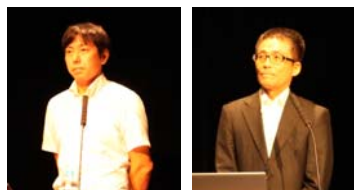
今年度は、8月30日(金)に、東京証券会館にて開催しました。WSSD2020年目標の達成に向けた取り組みが終盤を迎えるなか、化学物質をとりまく最近の規制動向から今後の政策に焦点を当てたテーマでシンポジウムを計画し、160名の方にご参加頂きました。各セッションの発表やパネルディスカッションでは、それぞれ活発な意見交換や討論が行われ、盛況な研究報告会となりました。

午前の部では、LRI活動の成果を広く知っていただくための取組みとして、2018年度(第6期)に完了した研究の報告をいただきました。岐阜薬科大学の中西剛教授より「エストロゲン作動性化学物質に対する新規 *in vivo* スクリーニング試験系の構築と低用量影響評価」、明治薬科大学の植沢芳広教授より「毒性発現経路および化学構造情報を指標とした薬物および化学物質に起因するヒト有害反応の予測法の開発」、東北医科薬科大学の中村晃教授より「セリンプロテアーゼインヒビター欠損細胞を用いた化学物質過敏症の高感度 *in vitro* 評価系の開発(副題: 呼吸器アレルギー検出のための細胞を用いた *in vitro* 系の検討)」、東京医科大学の善本隆之教授より「化学物質の呼吸器感受性 *in vitro* 評価法の開発」、愛媛大学の仲山慶講師より「環境中の化学物質のモニタリング情報を管理するプラットフォーム (ChemTHEATRE) の構築と活用」の5件の報告を頂き、各報告に対して活発な議論が行われました。



中西 教授 植沢 教授 中村 教授 善本 教授 仲山 講師

昼休みには、ロビーにて現在採択中の LRI 研究 11 課題の進捗状況を紹介する「ポスターセッション」が行われ、研究者と参加者が熱心に直接意見を交わす光景がそこかしこで見られるなど、時間が足りなくなるほどの盛況でした。



古水 准教授 古武 教授

午後の部では、日化協 LRI 賞*受賞者講演として、2018年度日本動物実験代替法学会日化協 LRI 賞の崇城大学の古水雄志准教授より「シリカナノファイバー三次元培養担体を用いたヒト肝臓細胞の機能発現に関する研究」、続けて2019年度日本毒性学会日化協 LRI 賞の広島大学の古武弥一郎教授より「化学物質神経毒性の分子基盤解明と毒性評価指標の開発」と題し、それぞれ LRI 賞受賞に関わった研究内容について講演いただきました。

(※日化協 LRI 賞は化学物質の安全性に関する研究で優れた業績を上げた研究者を表彰することを目的に2015年に日本毒性学会、2016年に日本動物実験代替法学会に、それぞれ賞を創設したものです。)

次に、日化協 LRI 事務局の稲若より、本年6月19日、20日にイタリアのストレーザで開催された ICCA-LRI & JRC ワークショップ (WS) 参加報告が行われました。「21st Century Approaches for Evaluating Biological Activity, Exposures, and Risks of Complex Substances」をテーマにした今年の WS には日米欧から約50名の研究者が参加し、*in silico*、*in chemico*、*in vitro* から得られた情報の活用に関する New Approach Methods (NAMs) の、混合物の規制および製品管理に使用する際の課題、不確実性、リスク評価を改善するための具体的な方法について議論されたことを紹介させていただきました。

「令和におけるレギュラトリーサイエンス」と題したシンポジウムでは、WSSD2020年目標の達成に向けた取り組みが終盤を迎えるなか、ポスト WSSD2020 における化学物質管理に対する政策の動向や方向性、海外における化学物質等の安全性評価に関する動向についてご講演をいただきました。

<講演>

- ・化審法の最近の動向と今後の方向性について —レギュラトリーサイエンスの観点から—
飛驒 俊秀 (経済産業省 製造産業局 化学物質管理課 化学物質安全室 室長)
- ・主に化管法の観点から化学物質環境対策の動向と今後の方向性
福嶋 慶三 (環境省 大臣官房 環境保健部 環境安全課 課長補佐)
- ・化学物質による労働者の健康被害に係るリスク評価制度について
内田 真司 (厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 化学物質対策課 化学物質評価室 室長)
- ・OECD における化学物質およびバイオセーフティ活動に対する日本の対応
小島 肇 (国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 安全性予測評価部 第二室 室長)



飛驒 室長 福嶋 課長補佐 内田 室長 小島 室長

<パネルディスカッション>

講演の後、日化協の坂田常務理事をファシリテーターとして、会場からの質問をお受けしてのパネルディスカッションを行いました。「動物実験代替法の今後」、「OECD 等での国際的議論・動向の国内へのフィードバック」などに関する質問があり、今後の取り組みや期待が議論されました。



パネルディスカッション